

# 2016大私教冬の教研

日時：12月17日（土）

会場：大阪電気通信大学高校

守口市橋波西之町 1-5-18 TEL (06) 6992-6261  
京阪電車・守口市駅より徒歩 8 分

（受付開始午後2:00）

全体会 午後2:30～5:00

講演 午後2:50～4:20 感想交流会 午後4:20～5:00

講座 午後5:15～6:45

夕食交流会 午後7:00～9:00

参加費500円・夕食交流会費500円

※詳細は企画検討中です。



講師：西谷文和さん（ジャーナリスト）

「報道の自由が平和をつくる—子どもたちとともに、真実を見抜く力を—」（仮題）

西谷さんのお話をもとに、いま教育の自由に対して強まりつつある、「公正・中立」という名の不当な支配・介入について考えてみたいと思います。テーマは重くても、私たちの精神は闊達でありたいと思います。いつものことながら「冬の教研」はあたたかい人々と希望に満ちています。みなさんは是非ご参加ください。

## ■西谷文和さんのことば『私たちはまたダマされてしまうのか』

「安全保障関連法施行により日本社会はどう変わるか」…

結論から言うと、私はすぐにはそれほど変わらないと思う。例えば徴兵制の導入など、ドラスティックに社会を変えようとするとは必ず大きな反発を招く。それよりも、もっと国民から「遠いところ」、例えば南スーダンに駐留する自衛隊の駆け付け警護の実施や、オーストラリア軍との潜水艦の共同開発、日米韓の軍事演習などで、じわじわと既成事実を積み重ねながら、

（1）福島原発事故や原発安全神話をふりまいてきた人々への怒りを「忘れさせ」ようとし、

（2）いままで積極的に政治に関わってこなかったけれど、安保法制の強行採決に怒り、国会を包囲した人たち、つまりシールズの若者や子育てママの会の母親たちを「あきらめさせ」ようとする。さらに

（3）東京オリンピックや芸能ニュースなどの「お祭り騒ぎ」で、大手メディアからまともな戦争報道を締め出し、テロの恐怖だけが煽られる中で、国民を「ダマそう」とするだろう。

## ■西谷文和さんのプロフィール

1960年京都市生まれ。立命館大学理工学部中退。大阪市立大学経済学部卒業。吹田市役所勤務を経て、現在フリージャーナリストでイラクの子どもを救う会代表。イラクやアフガンでの取材を続ける一方、地域ミニコミ誌「くおーたりー吹田」の編集にも携わる。現在、うめかもネットワーク（梅田貨物駅の吹田移転反対運動）の事務局長、吹田市民新聞主筆、元黒田ジャーナル記者たちと編集する「うずみ火新聞」共同代表。2006年度平和協同ジャーナリスト基金大賞を受賞